

画像解析を活用した鮮魚梱包用氷の自動挿入システムの開発

【課題】

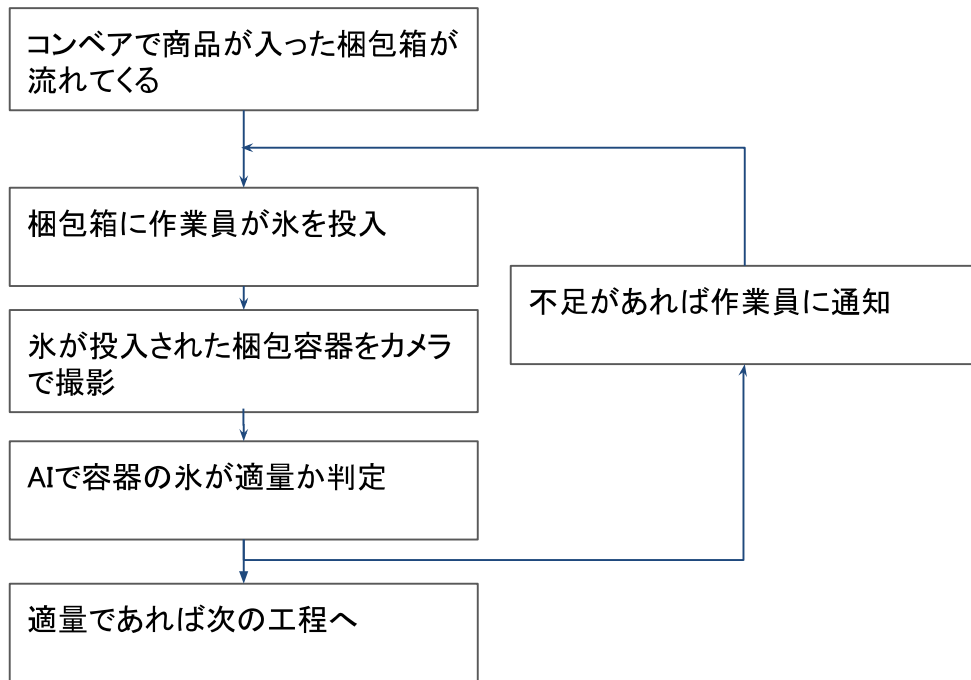
鮮魚の出荷先としては日本全国が考えられ、新鮮な状態で送るために梱包時の氷の挿入が欠かせない。だが、氷の挿入量に関しては作業員が目測で行なっているため適量でない場合が発生する。類似の自動選定などを行う事例では比較的大規模なシステムが多く本プロジェクトでは小規模な開発を目指す。また、氷以外の充填物にも適用可能な可能性が高く汎用性が高いため、様々な分野も市場となる可能性がある。

【解決方法】

氷の挿入を行なっているベテランの作業員の感覚をAIに学習させることで適量の氷を挿入する。コンパクトなIoTシステムで実現することで低コストで汎用性の高いシステムの構築を目指す。

【構想図】

開発システム概要



実際の作業風景

事業実施主体
(コンソーシアム構成員)

株式会社Ruby開発(東京都中央区) 合同会社 RSB(別府市) 株式会社兵殖(津久見市)